

# アラカルト

郡山トラックセンター事業協同組合  
専務理事

本田 宏さん

山口県菓子工業組合専務理事

恒松恵子さん



本田さん

同組合の仕組みや事業内容、一般企業との相違点、将来性などについてお話をさせていただきました。すべて組合士として学んできたことですから、やりがいもあり、組合士になってよかったと思いました。また組合士は自分へのプレッシャーでもあります。組合士なんだから逃げずにこの問題を解決しろよと

言い聞かすこともよくあります。

組合士は、私にとっては一つのアイデンティティですが、資格手当などを支給するようになると、もっと広まるのではないかなと思います。私も恒松さんと同様に、より多くの方に組合について知っていただきたくて、名刺に組合士のシールを貼っているのですが、「これは何ですか？」と聞かれて話がはずむことも多いです。バッジも常につけています。

一方で、物流の業界は厳しい状況が続いており、協同組合のあり方も変わりつつあります。これまでは「協同組合と組合員の結びつき」が中心でしたが、今後は協同組合と協同組合が結びつく時代を迎えることとなります。こうした変化にも、組合のことを熟知している組合士なら対応できると思います。

## ●大震災でも組合が活躍

**編集部** 今後の活動についてはどのように考えておられますか？

**恒松** 今までには組合士として円滑な事務局の運営のために心を砕いてきましたが、これからは菓子業界の組合事務局としてもがんばっていききたいですね。

組合員さんに対して各種助成金や好事例のご紹介のなど、いろいろな形でサポートさせていただければと思っています。あとは、後進の育成も課題ですね。

**本田** 私も後進の指導は重要だと考えています。組合士を目指す人が増えるように、私も貢献していきたいですね。

また、組合の重要性は東日本大震災でも明らかになりました。

発生直後は、燃料が通常のルートから確保できなくなり、県が間に入る形でなんとか供給できたのですが、その受け皿となったのが郡山や福島、いわきなどの協同組合でした。

災害時の防災協定などは従前から整えてありましたので、避難所への物資の配送などもスムーズに進めることができました。また、復旧、復興のための補助金や賠償金の説明会でも組合が活躍して、存在感を示しました。非常時には相互扶助が特に重要になります。この相互扶助はまさに協同組合の理念そのものです。たくさんの協同組合が大きな力を発揮出来たのはこの理念を有していたからだと思います。

**恒松** これからも組合として皆さんと協力していくことは大切ですね。

## 今後期待される 組合士の存在感

### ●組合士という資格に誇り

**編集部** 前回に続き、郡山トラックセンター事業協同組合（郡山市、永山忍理事長）の専務理事の本田宏さんと山口県菓子工業組合（山口市、小熊坂孝司理事長）専務理事の恒松恵子さんに、組合と組合士についてお聞きしたいと思います。

お二人は、組合士として、日々をどのようにお過ごしでしょうか。



恒松さん

**恒松** ビジネス関連の資格はいろいろありますが、組合士は若いころからずっと経理を担当してきた私にとって、最も取り組みやすく、誇りも持てる資格です。

全国的に見て、まだ組合士を有する菓子の協同組合はほとんどございませんので、機会があればアピールするようにしてい

ます。全菓連（全国菓子工業組合連合会）の広報誌のインタビューを受けさせていただいた時にも、「中央会が推進している中小企業組合士であることを記事に書いてください」とお願いしました。

中央会の担当者の皆さんも相談しやすくて助かっていますし、全国のいろいろな組合士さんと出会えて交流できるのも楽しみです。組合士の資格を持っていればこそ、他の地域に呼んでいただいて大先輩の組合士ともお話しさせていただくこともできます。これらも刺激になり、とても楽しいです。

**本田** 少し前に、一般社団法人東京都トラック協会のセミナーに講師として呼んでいただく機会があり、協